

絲綢之路

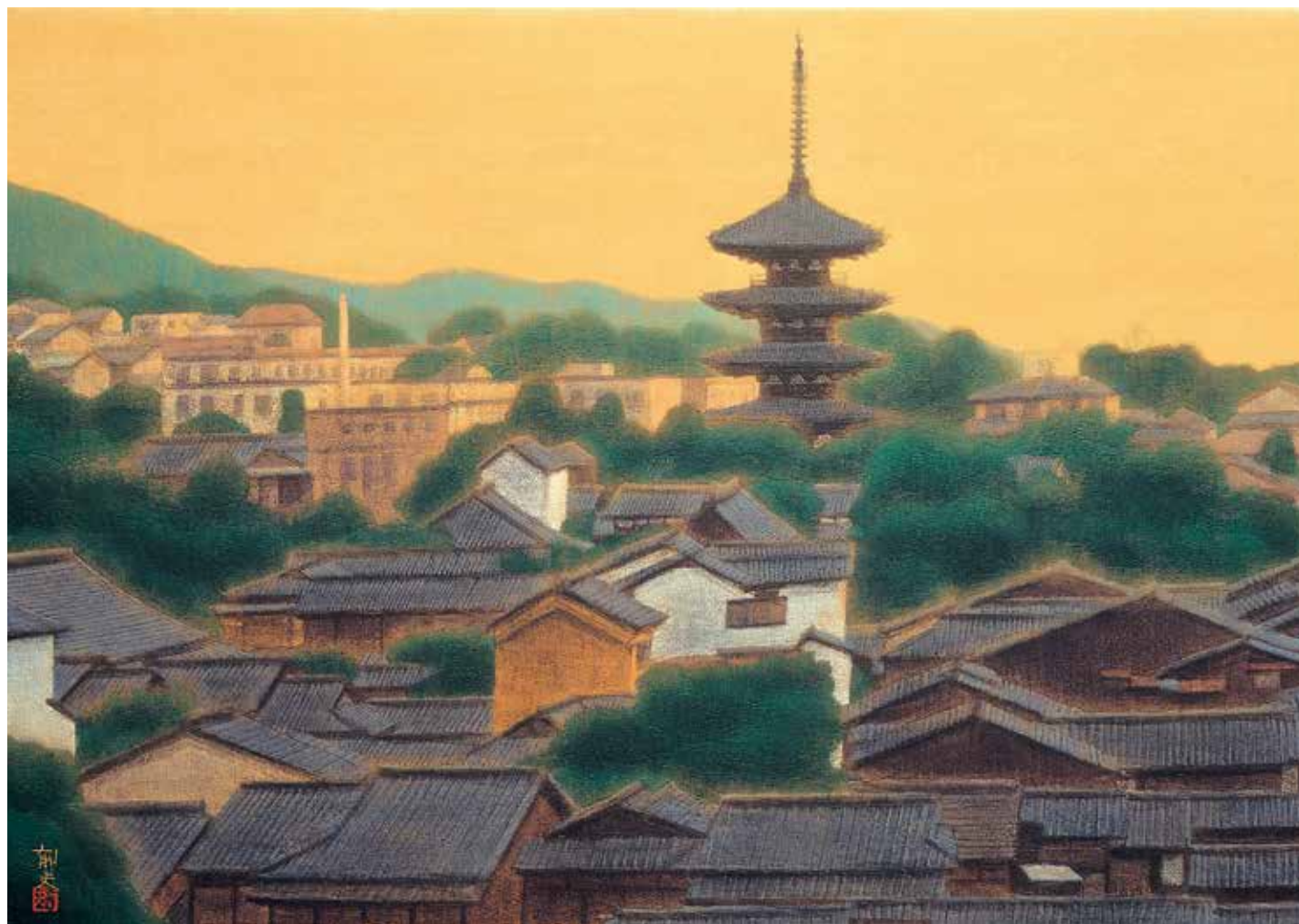
シルクロード

S I L K R O A D

2021-夏

No.96

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



八坂塔遠望 2004年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人

文化財保護・芸術研究助成財団

FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

科学博物館の収蔵品の特殊性

本年四月より林良博前館長の後を継いで、国立科学博物館（科博）の新館長となりました篠田です。これまでの館長とは違い、私は科博の職員（研究調整役・人類研究部長）からの内部昇格になります。ただし、これまでの勤務地は収蔵庫と研究施設のあるつくば市でしたので、上野の展示施設には展覧会の設営など、特に用務がないかぎり訪れることはありませんでした。

科博の役割については以前に林前館長が本誌に書かれていますので、本稿では上野の他の博物館・美術館とは違う科博の特殊な点についてお話ししたいと思います。それは私が筑波に勤務していたことも関係しています。実は国立の博物館で収蔵施設と展示施設が分かれているところは他にありません。その意味で科博はかなり特異な博物館なのです。科博の収蔵する産業技術史と自然史の標本は五百万点近くあり、しかも増加のペースも年間十数万点ほどと急速なので、とても上野地区に収まるものではないのがその原因なのです。上野では二万点ほどを展示していますが、それは科博の収蔵品のごく一部で、実際には来館者が見ることのない膨大な数のコレクションがあるのです。

科博には六〇名ほどの研究者がおり、基本的には標本をベースとした研究を行っています。多様な標本を大量に集める使命を持つ、というのが自然史・技術史の博物館が他館と最も異なる点で、そのため収蔵品は増え続けることになります。研究者が標本を集める動

機は、むしろ自分の研究のためですが、それ以上に将来の研究者に託すため、という目的があります。現職の研究者自身が、過去の研究者によって収集された標本をベースとして研究を進めるので、それを更に充実させて未来に引き継ぐと考えるのです。

さらに近年の社会状況の変化も科博に標本が集まる方向に作用しています。これまで日本の自然史標本の多くは、大学の研究者によって集められてきました。今でも多くの国立大学が膨大な数の標本類を持っています。しかし、標本をベースとした地道な研究は時代の流れから取り残されるようになり、最先端の研究に標本が使われることはほとんどなくなりました。そのため大学研究機関が、標本の廃棄を進めるようになったのです。歴史のある大学では、その伝統を重んじると言われますが、そもそも先達が人生をかけて収集した標本を蔑ろにするのであれば、その言葉も空虚に響くというものなのですが、残念ながら今の大学には標本を維持管理する場所も予算も人もありません。そこで博物館に引き取り手のない標本が集まることになるのです。

私が専門とする人類学では、主に人骨を使った研究を行います。そのため行政発掘などで出土した人骨を預かって、資料として保管しています。このような人骨は大規模な開発によって発見されることが多いので、公共事業が盛んになる時期に数多く集まります。東京オリンピック関連の事業が多かったここ数年間

は、年平均で五〇〇体以上の人骨が収納されました。

そんなに集めなくても、という意見もありますが、実は自然史や産業技術史の標本には、分析技術の進歩によって更に新たな価値が生まれるという特殊性があります。例えば、人骨に関しても従来は形の違いから、性別・年齢・死因などを類推していましたが、そのDNAが分析できるようになったことで、更に詳しいプロフィールを知ることができるようになっていきます。数年前に私たちは、この技術を使って江戸のキリシタン屋敷から出土した人骨が著名な宣教師であるジョバンニ・シドッティであることを突き止めることができました。科学博物館が集める標本では、将来の技術の発展に期待して、できるだけ多くを残すことも重要なのです。

上野の常設展示だけでは、このような展示の背後にある研究者の努力を理解していただくのは難しいのですが、標本の収集と維持・管理があつて科博の展示は成り立っています。今後さまざまな企画展示を通してそのことを来館者に知っていただこうと考えています。

筆者略歴

一九五五年静岡県生まれ。京都大学理学部卒。博士（医学）。専門は分子人類学。佐賀医科大学助教授を経て、二〇〇三年より国立科学博物館勤務。研究調整役兼人類研究部長を経て二〇二二年より現職。



国立科学博物館
館長
篠田 謙一
(しのだ・けんいち)

ピュー古代都市群

(ミャンマー連邦共和国)



ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ

©NFUAI

ミャンマー中部のピュー古代都市群は、紀元前二〇〇年頃から後九世紀にかけて栄えたピュー王国の遺跡であり、約二〇〇〇年前に東南アジアに仏教が伝来したことを示す最古の証拠でもある。仏教伝来により、この地域には経済的、社会的、政治的、文化的変容がもたらされ、九世紀までの最長の歴史を持つことになる最初で最大の都市社会をもたらしした。登録されたのは、ハリン、ペイタノー、シュリー・クシェトラの三つの都市遺跡で、いずれも煉瓦造りの城壁で囲まれた城塞都市。宮殿や埋葬地跡、仏塔などが残る。（写真はシュリー・クシェトラ）（二〇一四年に文化遺産として登録）

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

新型コロナウイルス感染症の中で

無形文化遺産をめぐる状況

物理的な被害は伴わないものの
新型コロナウイルス感染症は、
無形文化遺産の分野にも甚大な被害を
生んでいます。その驚くべき現状を報告。

はじめに

この度の日本を含め全世界に蔓延した新型コロナウイルス感染症は、物理的な被害を伴わないものの甚大な被害をもたらした自然災害の一つとして捉えるべきものと考えております。国立文化財機構では令和二年十月に本部に「文化財防災センター」が正式な組織として設置され、東京文化財研究所は東日本の拠点として位置づけられるとともに、無形文化遺産部が無形文化財に対応する中心として活動しております。

そのような中で、無形文化遺産部では今回の新型コロナウイルス禍の無形文化遺産に対する影響を継続的に調査していますが、その中でも古典芸能を中心とした無形文化財（伝統芸能）への影響についてはいち早く令和二年四月より情報収集を開始しました。情報はウェブ上で公開されているものから取得し、「関連事業の延期・中止」「新たな試み」「再開関連」の三つの観点から収集しました。現在も継続中ですが、この



うち「関連事業の延期・中止情報」と「再開関連情報」については、概要を表・グラフとして東京文化財研究所ホームページ（<https://www.tobunken.go.jp/ich/vsovid19>）で公開し、月一度程度の頻度で更新しております。また印刷物としても令和三年二月までの状況を『伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響』

した公演等の全体八〇八四件
うち実演を含むもの四五六八件／七〇〇四件、
実演を含まないもの二三三件／一〇八〇件

- ②月毎の推移
 - ・新型コロナウイルス禍を明記した中止・延期は令和二年二月末から現れ始めている。
 - ・中止・延期の件数が令和二年六月より目立って減少すると同時に、再開件数が増え始め八月には両者が逆転した。
- ③都道府県別
 - ・中止・延期、再開の件数は、東京都が二六六九件／五四一五件と飛び抜けて多く、続く大阪府が五二三件／六一九件、京都府が三三六件／二六八件となり、大きな差がある。
 - ・この時点で、東京都・大阪府の再開件数が中止・延期件数を上回った。
 - ・ただし現時点での再開は客席を減じるなどの対策を講じたもので、伝統芸能の復活までとはいえない。

関連分野（保存技術）への影響

- ・京都府の再開件数が中止・延期件数を下回っているのは、伝統芸能と観光の結びつきがより強いことが影響している可能性がある。
- ④ジャンル別
 - ・中止・延期、再開も一定期間興行を行う歌舞伎と落語の件数が多い。
 - ・中止・延期、再開件数とも、落語・講談・その他の演芸が伸びている。
 - ⑤会場規模別
 - ・再開件数については、小・中規模会場に勢いがある。
 - ⑥国指定重要無形文化財
 - ・未指定の公演が中止・延期、再開とも六〇％を超えており、中止・延期の影響を受けやすく、再開も進んでいない可能性がある。

また、この度の新型コロナウイルス禍のこれまで見てきたような影響を受けて、



有形・無形の文化財を支え継承していくためには必要不可欠である用いられる用具などの製作・修理の技術や、その用具等のための原材料製作技術でもある保存技術についても、技術の伝承や事業の継続について極めて厳しい状況にあることが、東京都八王子市「東京和楽器」（製作技術については「日本の芸能を支える技VI 三味線」東京文化財研究所 令和二年一二月発行を参照）がマスコミ等で取り上げられ、改めて認識されました。同社は三味線の国内シェア

東京文化財研究所
所長
齊藤 孝正
(さいとう・たかまさ)



をめぐる課題」（東京文化財研究所無形文化遺産部、二〇二一年三月二九日発行）として刊行しておりますので合わせて参考にしてください。

また令和二年九月二五日には東京文化財研究所において「フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」を開催し、伝統芸能への影響を共有する場を設けました。（「シリーズ」無形文化遺産と新型コロナウイルスフォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」報告書」東京文化財研究所 令和三年三月）

数字から見た伝統芸能への影響

以下、令和三年四月五日現在の概要コメントを簡単に紹介します。最新版はホームページよりご確認ください。

*関連事業の中止・延期件数／再開件数（以下配置は同じ）

- ①形態別
 - ・中止・延期となった公演等の全体四八〇一件／再開

五／六〇％を占める最大手ですが、新型コロナウイルス禍によつて多大な影響を被り、その事業存続が厳しい状況にあることに大きな衝撃が広がりました。

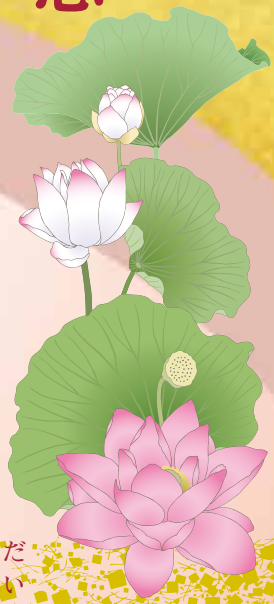
私は文化庁時代に美術工芸品分野の選定保存技術の選定・保持者の認定等を担当した経験もあります。その当時にも、修理に用いる用具の製作技術保持者の方から、その技術については身内の方に確実に伝承が出来ているが、需要が限られるために複数人で従事すると供給過剰になり、事業としては成り立たず後継者の方は会社員を続けている、というお話を伺ったことを思い出します。このような分野についても、改めて技術の伝承と事業の継続をどのように進めていくのかを真剣に検討する時期になったと実感しております。

筆者略歴

- 昭和31年7月生まれ
- 昭和56年11月 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程（考古学）途中退学
- 平成2年6月 名古屋大学文学部助手（考古学講座）
- 平成3年6月 文化庁文化財保護部美術工芸課文部技官（工芸部門）
- 平成12年4月 文化庁文化財保護部美術工芸課文化財調査官（工芸部門）
- 平成13年1月 文化庁文化財調査官（工芸部門）
- 平成13年1月 文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官（工芸部門）
- 平成16年4月 文化庁文化財部美術学芸課文化財管理指導官（併任）
- 平成19年10月 文化庁文化財部伝統文化課文化財保護調整室文化保護調整官（併任）
- 平成25年4月 東京国立博物館上席研究員
- 平成26年4月 文化庁文化財部文化財鑑査官（平成29年3月）
- 平成30年7月 国立文化財機構文化財活用センター統括マネージャー
- 平成31年1月 東京文化財研究所長

伝教大師の志

「伝教大師最澄一二〇〇年大遠忌に寄せて」



天台宗寒松院住職
東叡山寛永寺執事
宮部 亮侑
(みやべりょうゆう)

比叡山延暦寺は、日本の歴史と文化に
大きな影響を与えた。
千年の時を越えて、その礎を築いた
伝教大師最澄の「心」に想いを寄せる。



はじめに

上野の山の一角にある天台宗の寛永寺は、江戸時代の寛永年間に天海大僧正によって、幕府と万民の安泰を願うために創建されたお寺です。時代を経るにつれ、寛永寺は上野の山全体を寺域とし、また徳川將軍六人を祀るなど、東日本を代表する寺院となっていました。

さて寛永寺は、「東の比叡山」を意味する「東叡山」を山号としています。天海大僧正は寛永寺を創建するにあたり、寛永寺を天台宗の総本山である比叡山延暦寺に見立てたからです。ところで今年は、天台宗を開かれた伝教大師最澄さま一二〇〇年の大遠忌に相当しています。大師の生きた時代は奈良から平安にかけてであり、都が移るなど世の中が大きく動いたときでした。そのため、一口に「天台宗を開く」といっても、想像を超える困難があったはずですが、では、大師の志とはどのようなものだったのでしょうか。



延暦寺根本中堂で永遠に燃え続ける「不滅の法灯」

した独特の思想は、それまでの日本にない総合仏教の基盤となつてゆきます。

帰国後の大師は密教を広めることに力を入れました。当時は桓武天皇が病氣であり、病氣平癒の権威ある祈禱が求められていたのです。こうした活動を経て、大師は「天台宗を国に認めてもらいたい」と願ひ出しました。当時の「正式な修行僧」は、修行の費用を国からすべて賄ってもらうという制度になっており、東大寺をはじめとする奈良仏教の各宗派にその割り当てがなされていました。つまり、国家予算で僧侶の養成が行われていたのです。大師の再三にわたる願ひ出が許されたことにより、日本に天台宗が開かれることとなりました。

晩年の大師は、戒律の扱いについて尽力されました。当時は戒律を授かる場が日本で三カ所と決められ、かつインド以来の伝統的な戒律が授けられていました。そこで大師は、日本は大乗仏教の国なのだから大乘戒を授けるべきであり、かつ延暦寺で授けたいと主張されたのです。この提案は猛反発を受け、てしまいましたが、大師は最期まで諦めませんでした。

弘仁十三（八三二）年六月四日、大師は「私の志を広めなさい」と遺言され、五十七年にわたる生涯を閉じられました。そのご生涯に對し後年に贈られた「伝教大師」という号は、日本で初めての大師号でした。また円頓菩薩戒をはじめ、天台の教えは伝教大師の志として広まり、平安中期には浄土教が盛んとなるなど、比叡山は「日本仏教の母山」と呼ばれるようになっていったのです。

「伝教大師」とは？

伝教大師最澄さまは、天平神護二（七六六、一説には翌七六七）年、比叡山の麓である近江国滋賀郡（現在の滋賀県大津市）でお生まれになりました。

二十歳になると、大師は奈良の東大寺で戒律を授かることで、公に認められた僧侶となりました。しかし大師は間もなく比叡山に入り、早々に厳しい自己反省を行っています。大師が幼いころからよく知った比叡山は、古来より霊山として尊崇されていたことから、自己を見つめ直す絶好の場であったことでしょう。こうして「自分だけでさとりを開くようなことはせず、世間の人々とともに一緒にしたい」という並々ならぬ決意表明を行いました。

大師の修行と学問により、比叡山には次第に弟子が集まってくるようになりました。そこで大師は延暦七（七八八）年に、天台の教えに基づく新しいお寺を作ることになりました。



伝教大師最澄像（延暦寺蔵）

「天台の教え」とは？

では、大師が心に留めた天台の教えとはどのようなものだったのでしょうか。それは『法華經』に基づくものです。お釈迦さまは説法を行う中で、物わかりの良い人・そうでない人など、様々な人に出会いました。そこでお釈迦さまはあらゆる人が聞く耳を持つよう時間をかけ、そして誰もが教えを理解できるように整えた最晩年に、『法華經』を説いたと考えられています。この『法華經』に説かれる、あらゆる人が仏になれるとする「一仏乘（一乗）」の考えが天台の教えの中心となります。

ただし理屈だけを述べるのではなく、天台宗ではそれを理解した上で実践することも同様に重視します。お釈迦さまの教えは知識として蓄えるものではなく、自分とどのように関わるのかを探索すること、で、「私」とは何かが明らかになってゆくのではないのでしょうか。



法華の行者を護る普賢菩薩（東京国立博物館蔵・国宝）*

大師の願ひ

大師のお考えが表れている一文をご紹介します。しよう。大師が天台宗の開宗を願ひ出た際のお言葉です。

網目が一つしかない網では鳥を捕えることが出来ないように、これまでの各宗派だけだと、日本中に仏教を広めるにはカバーしきれません。（『天台法華宗年分縁起』）

大師が天台宗を開こうとお考えになった根底にあったのは、日本仏教の裾野を広げるために天台宗を認めてほしいといったもので、他者を批判するものではありませんでした。他の教えを排除してしまふと、仏教が広がらなくなってしまうのです。

大師が目指した仏教は、まさに「お釈迦さまの教えとは何か」という、仏教の根幹を求めることと言えます。つまり『法華經』を大切にしながら、その他あらゆる



国宝・伝教大師筆「天台法華宗年分縁起」（延暦寺蔵）

經典に説かれるお釈迦さまの教えを学び、そして実践してゆこうとするのが天台の教えであり、それを日本に広めたのが伝教大師最澄さまであったのです。

◎伝教大師一二〇〇年大遠忌記念として、今秋十月十二日より十一月二十一日まで、東京国立博物館において特別展「最澄と天台宗のすべて」が開催されます。寛永寺のご本尊で、伝教大師自刻と伝えられる秘仏・薬師如来もご出座されます。この勝縁にどうぞお参り下さい。

筆者略歴

一九七五年東京都生まれ。天台宗寒松院住職、東叡山寛永寺執事、大正大学非常勤講師、天台宗総合研究センター研究員。専門は法華思想。著書に『天台仏教の教え』（共著、大正大学出版会、二〇二二年）、他論文多数。

*国立文化財機構所蔵品統合検索システムによる。

琵琶

シルクロードから平家物語へ

人々の喜怒哀楽の情を乗せて響く琵琶の音。西域生まれのこの楽器は、いかにして日本人の心をとらえたのだろうか。



武蔵野音楽大学教授
薦田 治子
(こまだ・はるこ)

正倉院の琵琶とそのルーツ

琵琶と言えば、正倉院の螺鈿紫檀五弦琵琶が有名です。ネックがまっすぐなので「直頸琵琶」ともよばれます。花や鳥、飛雲などが、螺鈿や玳瑁を用いて一面に描かれた槽の華やかさは、正倉院宝物中の白眉と言ってもいいでしょう。撥があたる「桿撥」には、ラクダに乗って四弦琵琶を奏する西域人が描かれていま



五弦直頸琵琶（螺鈿紫檀五弦琵琶） 正倉院宝物

四弦琵琶を奏する胡人
（螺鈿紫檀五弦琵琶）の桿撥部分
正倉院宝物



四弦曲頸琵琶
（柱は四つ「楓蘇芳染螺鈿槽琵琶」
正倉院宝物）

中国の琵琶

盛唐の詩人王翰が、西域の警備にあたる兵士の心情を詠んだ七言絶句『涼州詩』には、馬上の琵琶が出てきます。

葡萄美酒夜光杯／欲飲琵琶馬上催／醉臥沙場君莫笑／古來征戰幾人回（葡萄の美酒を夜光の盃で飲むとすれば、馬上の琵琶の響きがそれをせきたてる。酔いつぶれても笑わないでくれ。古來出征して何人が無事戻れただろうか。）

涼州では、西域の音楽が、中原より早く流入し、そ

述の正倉院の琵琶と大きく変わることなく、この点では、中国の琵琶が奏法も楽器の形も変わっていったのとは対照的です。

源氏物語と琵琶

平安時代に、貴族たちが「あそび」と称して雅楽の演奏を楽しんだ様子は、『源氏物語』などにも描かれています。須磨に流された源氏が出会った明石の君は琵琶が巧みで、琵琶は、明石の君の洗練された上品さや気高さを象徴的に表しています。いっぽう、「宿木」の巻では、匂宮が中君の心変わりを疑う場面で、琵琶を弾きます。中君はうながされて不承不承で合奏します



切手にもなった『源氏物語絵巻』
中君の前で琵琶を弾く匂宮

が、匂宮の言葉に傷ついた中君の筆は、弦が緩んで音が合いません。音楽を用いて巧みに中君の心理を表現していると言えます。こうした描写からは、平安貴族のたしなみとして、楽琵琶が生活に溶け込んでいた様子がわかります。

琵琶法師と平家物語 ——平家琵琶

一〇世紀の末頃から、「琵琶法師」と呼ばれる盲人音楽家が現れます。盲人はしばしば寺社の庇護を受けていましたので、法会で用いられる雅楽の琵琶の音色をよく知っていたでしょうし、音楽家として貴族の屋敷に出入りするうちに、琵琶の奏法を知る機会があったと思われるます。歌いながら演奏ができ、持ち運びも可能な琵琶を自分たちの楽器として取り入れます。百人一首でおなじみの蟬丸は、琵琶法師の祖と仰がれ、また『今昔物語』では、楽琵琶の名人とされています。琵琶法師は、鎌倉時代になると、『平家物語』を語り、室町時代にかけて広く人々の人気を集めました。この音楽を「平家」と言います。「平家」は古典音楽として

の地位を獲得し、茶の湯や連歌の席、あるいは、法事や祝い事の席などで演奏されるようになります。江戸時代には、知的で優雅な趣味として、武士や茶人、俳人らが平家を自ら語って楽しみました。

平家琵琶は、ほぼ楽琵琶と同じ楽器ですが、やや小型で、ネックに柱が五つあり（楽琵琶は四つ）、撥先両端がとがっている点が楽琵琶と異なります。



平家琵琶「初瀬」（柱は五つ）
浜松市楽器博物館提供



楽琵琶（左）と
平家琵琶（右）の撥◎

盲僧の琵琶改造——盲僧琵琶

十六世紀半ば過ぎに日本に三味線が伝来すると、琵琶法師は琵琶の代用楽器として撥を使ってこれを演奏し始め、やがて江戸時代には、地歌、各種浄瑠璃や歌舞伎の長唄などさまざまな三味線音楽が発達します。しかし三味線全盛のこの時代に、ひそかに新しいタイプの琵琶が九州地方で生まれていました。九州地方には、全国的な盲人組織であった「当道座」に参加することを拒んだために、芸能活動を禁止され、流行の三味線を取り上げられてしまった琵琶法師がいました。彼らは盲僧を名乗り、使用の許された琵琶を三味線風に改造し、盲僧琵琶を作りました。表向きは経文を読む宗教者として活動しながら、流行の三味線音楽を盲僧琵琶で演奏し、かろうじて芸能者として生き延びたのです。

近代琵琶の誕生 ——薩摩琵琶と筑前琵琶

柱を高く大きくして、その間を押し込むことで三味線同様に連続的な音高変化を可能にした盲僧琵琶から、十八世紀も末になると、薩摩琵琶というユニーク

の中心楽器であった琵琶が盛んに演奏されたようです。葡萄酒、夜光の盃とならんで、騎馬民族が馬上で奏でる琵琶は西域を感じさせるアイテムだったのでしよう。

白居易の『琵琶行』は、百年ほど後に詠まれたもので、都から離れ不遇をかこつ自らの境遇を、零落した芸妓の琵琶の名演奏に、重ねて嘆く長編の唐詩です。ここでは、琵琶は、すっかり身近な楽器となっています。古今東西の音楽の描写の中でも、『琵琶行』のそれは最も素晴らしいものといわれています。佳境に入った琵琶の演奏を「大絃嘈嘈如急雨／小絃切切如私語（太い弦は驟雨のように激しく、細い弦はささやきのように密やかに鳴り響く）」と描写します。

『琵琶行』では四弦の琵琶が撥で演奏されていますが、中国では、唐代の末から宋代にかけて、弦を直接指で弾く奏法が発達し、柱（フレット）の数も増え、楽器の構えも横抱きから縦抱きになり、今日見られるような中国の琵琶（琵琶）の形に変化していきます。

日本の琵琶——楽琵琶

日本に伝わった五弦琵琶と四弦琵琶という二種の琵琶は、宮廷のみならず大寺院や神社で演奏される雅楽に用いられましたが、五弦琵琶が次第に用いられなくなったのに対して、四弦琵琶は、楽琵琶として、今日でも雅楽の中で演奏され続けています。その形は、前



薩摩琵琶（個人蔵）大きな柱◎



薩摩琵琶の撥◎

な琵琶楽が発達することになります。大きな撥で激しく弦を掻き鳴らす薩摩琵琶は、明治時代に東京に出て活躍した薩摩人とともに東京にもたらされ、「武士の修養のための音楽」という歌い文句とともに、明治後半から大正時代に大流行します。薩摩以外の九州各地の盲僧も新琵琶楽を目指しますが、そのなかで筑前琵琶が成功をおさめ、薩摩琵琶と並んで、近代琵琶楽を代表する存在になりました。これらの琵琶楽は、第二次世界大戦後、一時人気を失いますが、大正時代に開発された五弦の琵琶を中心に薩摩琵琶、筑前琵琶とも、近年は若い演奏家が育ってきており、新たな可能性が開けてきています。

このように日本では、シルクロードの香りを残す楽琵琶から、明治・大正時代の空気を吸って成長した薩摩琵琶や筑前琵琶まで、時代や用途によってさまざまな琵琶が生まれ、人々の思いを奏でてきたのです。

筆者略歴

日本音楽研究家。東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。お茶の水女子大学より「平家の音楽——当道の伝統」で学位取得。東京藝術大学講師、お茶の水女子大学助教授を経て、現在武蔵野音楽大学教授。企画に加わったCD『琵琶法師の世界 平家物語』（CDマ録音）は平成二十一年度芸術祭レコード部門で大賞を受賞。伝承の危機にあった平家の若手の演奏家を育成した成果により二〇一八年小泉文夫音楽賞を受賞。専門は平家の音楽、琵琶の楽器史。

東日本大震災被災文化財救援・

復旧支援事業をかえりみて

東日本大震災から十年。
被災文化財の救援・復旧支援事業に
財団は取り組んでまいりました。
その現状を総括いたします。

財団専務理事
小宮 浩
(こみや ひろし)

悪夢の日

二〇一一年三月十一日。あの日、東日本で起きた悲劇を私たちは、永遠に忘れることはありません。
東北地方の太平洋岸は巨大地震と大津波によって壊滅的な被害を被りました。文化財として例外ではありませんでした。
一九九五年度の阪神・淡路大震災の時の経験もあったため、私たちは震災直後に被災文化財の救済に乗り出すことを決めました。では、具体的にはどう動いたらいのかと、その取り組み方を討議していたところ、文化庁より東北地方太平洋沖地震被災文化財等救



陸前高田市立博物館での救出作業。引き波によって博物館には住宅や車など大量の瓦礫が流入し、床には1メートル以上の砂が堆積していたため、資料の救出は困難を極めた



被災直後 宮城県・安国寺「木造阿彌陀如来坐像」修理
双葉町歴史民俗資料館からの収蔵品搬出作業

援事業（文化財レスキュー事業）を開始するので、ぜひ協力してほしいとの要請があり、当初は所謂レスキュー事業への協力から活動は始まりました。
東日本大震災における被害の二大要因は、大津波と原発事故による放射線被害です。
震度7、マグニチュード9.0という巨大地震ではありましたが、地震そのものによる建造物の壊滅的な倒壊はそれほど多くはなかったように思えます。しかし、震災後八ヶ月後ではありましたが、陸前高田市で目にした光景は強烈でした。
太平洋に面する陸前高田市は、リアス式海岸を擁する美しい地です。陸中海岸国立公園の美を演出するリアス式海岸は津波の襲来によって凶器と化します。リアス式海岸では津波が来ると湾の奥では、波高が高くなり、大きな被害をもたらします。

当時はもう瓦礫の処理も進み、震災直後の悲惨な光景は消えていきましたが、住宅も商店街も無い、一見するとフラットな感じの市街地は廃墟というには、あまりにも悲しい光景でした。
巨大地震の驚異の破壊力の一端が前述のようであれば、もう一方の目に見えない大きな破壊力は放射線です。
東京電力福島第一原子力発電所での津波による原子炉事故によって放射線による汚染が顕著な周辺の住民の方々は避難・退去を余儀なくされました。
こうした自治体の中で、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館、双葉町歴史民俗資料館等の収蔵品の救出作業が当初の喫緊の課題でした。



男山本店店舗被災状況



完成した男山本店店舗

多くの善意のもとに

活動期間は五年ということで文化庁長官を先頭に私どもは募金と呼びかけました。その結果、個人、法人を合わせて四億五、〇〇〇万円余の義援金が寄せられました。しかも、義援金は今日においても極めて少数ですが、まだ寄せられております。誠にありがたいことだと、感謝いたしております。

義援金の中でも突出していたのは、外資系の法人によるものでした。中でもエルメス・ジャボン様からは一億円という支援を受けました。ただ、これには被災した気仙沼市の風待ち地区の被災建造物の復興に使ってほしい、との条件付きでした。

昭和四年（一九二九）、気仙沼は大火に襲われ、壊滅的な被害をうけました。この時、町の復興に役も二役も買ったのが、気仙大工と呼ばれる高い技術を持った集団でした。彼等が自由闊達なデザイン感覚で築いたのが、地震と津波で大きな被害を被った気仙沼湾に面した風待ち地区と呼ばれる街並みだったのです。



女川町 復活獅子振り披露会を機に完全復興を目指す

昭和ロマンの面影を残した風待ち地区一帯は、地盤沈下が著しく、国指定の文化財である建造物は嵩上げ工事が終了するまでには、復元工事は手つかずの状態でした。

そうした事情下で、正直なところもどかしさを感じてはいましたが、人々の情熱と努力の結果、この秋までには大震災



記者会見にのぞむ京極夏彦先生と当時の宮田亮平理事長

困難の多い作業が待ち受けています。

古文書をはじめとする紙の文化財は、海水による塩分の除去、汚れの除去、黴などから守るための燻蒸などなど、一枚の記録を元の状態にもどすためには根気よく作業に取り組んでいかなければなりません。時間、マンパワー、そして大

な費用を要します。

財団が取り組んだ支援事業の中で最後まで残ったのが、京極フアンドの有効活用でした。そうした中、時はどんどん過ぎてゆきました。そして昨年、東京国立博物館名誉館員で保存科学者の神庭信幸先生の御助言等もあり、陸前高田市の「吉田家文書」の修復を助成することとなりました。

作業は四月から始まる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のため延期となってしまいました。今年のどこからかの時点で始まるものと思われま

心安らぐ出来事

震災当日、広田半島の東側にある六ヶ浦漁港から出した岩手県立高田高校海洋システム科の実習船「かもめ」は、二〇一三年四月にアメリカ・カリフォルニア州クレセント市の海岸で発見されました。

船体は貝で覆われていたとのこと。クレセント市の高校生たちは、募金活動を通じて日本への返還を働きかけ、企業の協力も得て同年十月二十二日に「かもめ」は陸前高田市へ帰郷を果たしました。

さらに「かもめ」に付着していたエボシガイとムラサキイガイの標本は、十一月二十六日に陸前高田市を訪れたキャロライン・ケネディ大使から「特別な贈り物」として同市に贈呈されました。

太平洋に面する陸前高田市は、白砂青松を文字通り絵に描いたような高田松原で知られていましたが、大



2012年3月11日、「奇跡の1本松」の前で、被災松で作ったヴァイオリンを演奏するイヴリー・ギトリス氏。
(©ベルナル・モラレス)

津波によって「奇跡の一本松」を残して消滅しました。ヴァイオリン・ドクターとして知られる中澤宗幸氏は、流木と化した松を使ってヴァイオリンの製作を試みました。

何度も試行錯誤をくりかえしながらも完成。中澤氏の心は、千人のヴァイオリニストのリレーによって演奏されました。その中の一人に当財団の澤和樹理事長の姿があったことは言うまでもありません。

中澤氏は言います。

「千手観音の千本の手は、どのような衆生をも漏らさず救済しようとする、観音の慈悲と力の広大さを表すと言います。千年に一度の大震災とも言われましたが、千という数字を被災地で亡くなった方々へ向けた無数の鎮魂の祈り、被災された方々の無数の希望として託しました」

二〇一二年三月十一日、陸前高田市での追悼会で鎮魂の調べが奏でられました。弾き始めは、当時八十九歳であったイスラエルのユネスコ親善大使でヴァイオリニストのイヴリー・ギトリス氏。そのギトリス氏は昨年幽明境を異にされました。十年の歳月は短いようでも長いのもかもしれません。

※ ※ ※

東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業に関しては個人・法人をはじめとする官民一体となった御協力を賜りました。ありがとうございました。心より感謝・御礼申し上げます。

時の流れを止めることは誰にもできません。今、あの日、あの時を思うと心痛むものを覚えます。

大震災によってお亡くなりになりました方々の御冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

京極フアンド

東日本大震災が起きてまもなくの五月、講談社の文芸局の方から、作家の京極夏彦氏が企画が進行中の電子書籍化される「百鬼夜行」シリーズの配信収入の一部を被災文化財レスキュー事業に寄付したいと、おっしゃっているが、いかがなものでしょうか、といった申し出を受けました。

もちろん、財団としては異存があらうはずがなく、基本的には話は即、合意しました。

京極氏は、作家は紙とは縁の深い関係にあるので、寄付金は紙の被災文化財の修復、保存のための救済に使ってほしいと、希望を述べられました。これが氏からの唯一の条件でありました。

津波によって水没した古文書類を修復する道程には

■文化財保存修復助成事業

国内文化財の保存修復助成事業として、
27都道府県教育委員会から推薦のあった47件
の中から、26件について助成を行いました。

(敬称略・以下同)

(美術工芸)

- ①宮城県・保昌寺
丈六阿弥陀如来坐像蟻害対策事業
- ②山形県・西明寺
木造十一面観音坐像保存修復事業
- ③鳥取県・大日寺
木造菩薩形立像修理事業
- ④愛媛県・円明寺
木造阿弥陀三尊像のうち両脇侍立像保存
修理事業



(修復後)

(修復前)

- ⑤高知県・赤岡絵金屏風保存会
「旧赤岡町の土佐芝居絵屏風」保存修理事業



(修復前)



(修復後)

対して助成を行いました。

(※の事業については、コロナ禍により事業
が中止となり、辞退となっております。)

- ①敦煌研究院より研究員招致(徐 銘君氏)
2020年10月1日～2021年9月30
日(※)(敦煌研究院院長 趙 声良)
- ②敦煌研究院より研究員招致(孫 勝利氏)
2020年10月1日～2021年9月30
日(※)(敦煌研究院院長 趙 声良)
- ③イタリアにおける文化財建築の保護に関
する研究(※)(名古屋市立大学 芸術
工学研究科 教授 青木孝義)
- ④トルコ共和国古代遺跡出土遺物、遺構の
保存、修復と若手専門家の養成(公財)
中近東文化センター附属アナトリア考古
学研究所 所長 大村幸弘)

■重点助成事業

- (1)熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業
熊本地震により被災した文化財の救援
と修復のために平成28年度から募金を行
い、5年計画の5年目になります。
令和2年度は、熊本県教育委員会から
推薦のあった1件に対して助成を行いま
した。

(美術工芸)

- ①熊本県・熊本地震田中憲一の画を救う会
代表 渡邊秀和
田中憲一被災作品《廃船B》保存修復事業
(2)昭憲皇太后大礼服研究修復復元支援事業
大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服
は、明治時代の西欧化、社会変化、殖産
興業などを表象する大礼服であり、現存
する最古の昭憲皇太后所用の第一礼装で
す。貴重な歴史資料であり、近代日本の
象徴的遺産として文化財的価値が高いも
のになります。
経年劣化著しい大礼服の修復、欠失し
ている部分(スカート)の復元のため、令

(建造物)

- ⑥岩手県・尾崎邦夫・尾崎朋子
村上家住宅修理事業
- ⑦福島県・如法寺
如法寺観音堂 浜縁修繕事業
- ⑧茨城県・長勝寺
長勝寺本堂屋根葺替等修繕事業
- ⑨栃木県・医王寺
医王寺大師堂・唐門 屋根保存修理事業



(修復前)



(修復後)

- ⑩千葉県・玉崎神社
「玉崎神社本殿・拝殿」保存整備事業
- ⑪千葉県・宮谷八幡神社
宮谷八幡宮本殿修繕事業
- ⑫東京都・春日神社
春日神社本殿保存事業
- ⑬神奈川県・本禅寺
本禅寺本堂保存修復事業
- ⑭新潟県・菊地市三郎
菊地家住宅 茅葺屋根修繕事業
- ⑮石川県・無限庵
無限庵御殿保存修理事業
- ⑯福井県・南専寺
南専寺山門保存修理事業

和元年度から令和5年度まで募金を行い
昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事
業を実施します。
令和2年度は5年計画の2年目であ
り、次の助成を行いました。

- ①昭憲皇太后大礼服研究修復復元プロジェ
クト実行委員会
昭憲皇太后大礼服研究修復復元支援事業
・トレイン本格修理(令和2年度分)
・研究考察の探求のためのシンポジウム
開催



大礼服トレイン下部 修復
(染技連にて)



明治神宮鎮座百年記念シンポジウム
「美の継承」 令和2年10月24日

- (3)サールナート(インド)野生司香雪の仏伝
壁画保全支援事業
日本画家・野生司香雪は、昭和7年か
ら11年に5年をかけてインドの聖地サー
ルナートの初転法輪寺で仏伝壁画を完成

- ⑰山梨県・台原洋
台原家住宅保存修理事業

- ⑱静岡県・実相寺
実相寺伽藍のうち庚申堂建造物保存修理事業
- ⑲三重県・春日神社
春日神社拝殿保存修理事業
- ⑳兵庫県・南僧尾区
南僧尾観音堂保存修復事業
- ㉑島根県・覚皇山 永明寺
永明寺 本堂保存修理事業



(修復前)



(修復後)

- ㉒熊本県・千光山生善院
生善院 本堂・庫裏保存修理事業
- ㉓鹿児島県・大和村
大和浜の群倉葺替事業
- (有形民俗)
㉔富山県・八尾町 東町曳山保存会
八尾町祭礼曳山保存修理事業
- (無形民俗)
㉕滋賀県・大字西大路
日野曳山祭／西大路曳山保存修理事業
- (その他)
㉖北海道・恵庭市教育委員会
恵庭市内出土金属製品保存処理事業

させました。その仏伝壁画は、今では我
が国在外の稀有な近代芸術の文化財であ
り、また日本・インドのみならず世界の
人々との日本芸術を介した文化交流の大
切な記念碑となっています。

日本画の大壁画も制作から80有余年が
経ち、経年劣化が進み剥落が激しく保全
措置が必要となり、令和元年度から令和
3年度まで募金を行い、仏伝壁画の剥落
止め、古写真のデジタル化、壁画デジタ
ル撮影等の保全事業を実施します。

- 令和2年度は、コロナ禍により壁画保
全作業は中止し、令和2年9月1日から
6日の間、香川県立ミュージアムにおい
て「インドと日本をつなぐ郷土の日本画
家―野生司香雪とサールナートの仏伝壁
画」展覧会とフォーラムを開催しました。

- ①野生司香雪画伯顕彰会
サールナート(インド)野生司香雪仏伝壁
画保全支援事業



展覧会開会式



展覧会の様子

- (4)尼門跡寺院文化財保存修復支援事業

尼門跡寺院の文化財保存修復事業は、
故平山郁夫元理事長が上皇后から依頼を
受けて実施しているものであり、平成12
年度から開始され平成29年度までに29件
の文化財を修復しています。

今回の事業は、中世日本研究所(京都)、
中世日本財団(ニューヨーク)が中心

■芸術研究等助成事業

文化財の保存修復及び芸術に関する調査
研究、成果の発表、国際交流事業の実施等
に対する助成事業として申請のあった26件
の中から、8件の事業に助成を行いました。
(※の事業については、コロナ禍により事業
が中止となり、辞退となっております。)

(研究・事業)

- ①演奏会「和楽の美く古の花」(東京藝
術大学 音楽学部 准教授 露木雅弥)
- ②国宝「信貴山縁起絵巻」現状模写研究(東
京藝術大学 美術学部 教授 吉村誠司)
- ③第3回 東京藝術大学 & 清華大学美術学院
テキスタイル国際交流展2020(※)
- (東京藝術大学 美術学部 教授 上原利丸)
- ④山西省仏教彫塑像の制作材料と技法に関
する調査―日中共同による保存修復に向
けての基礎研究―(※)(国立文化財機構
東京文化財研究所 客員研究員 岡田健)
- ⑤世界のうるし―装飾と造形―展覧会及び
シンポジウム(※)(宇都宮大学 教育学
部 教授 松島さくら子)
- ⑥文化財保存修復を目指す人のための実践
コース―被災した文化財の第一次レス
キュー―(特定非営利活動法人 文化財
保存支援機構 理事 増田勝彦)
- ⑦山田流箏曲の楽譜の出版(東京藝術大学
音楽学部 教授 萩岡松韻)
- (研究員招致)
⑧外国人研究者招致 Remy Deryfuss-
Designe(レミードレフュス＝デュセー
ニユ)(※)(国立文化財機構 東京文化
財研究所 保存科学研究センター 修復
材料研究室長 早川典子)

■国際協力事業

文化財の保護及び芸術文化に関する国際
的な協力・交流、人材養成事業など申請の
あった4件の事業の中から、4件の事業に

となり、日本だけでなく世界から寄付を
募り実施します。
令和2年度は4年計画の1年目であ
り、次の助成を行いました。

- ①中世日本研究所、真如寺(京都)
真如寺蔵無外如大禅尼像他研究修復出
版プロジェクト
・無外如大尼坐像、由来額、仏具など
公益財団法人美術院国宝修理所にて
修復



真如寺 無外如大尼坐像搬出時 養生



由来額

- (5)その他(東日本大震災被災文化財救援・
復旧支援事業)

例年実施の文化財保存修復助成申請の
中には東日本大震災被災文化財の保存修
復事業の案件が未だに含まれており、東
日本大震災被災文化財救援・復旧支援事
業の募金及び残予算もあることから、次
のとおり助成を行いました。

(建造物)

- ①岩手県・陸前高田市長
旧吉田家住宅主屋復元事業

